

第5回アジアBMW技術交流会

(第29回BMW技術全国交流会)

**Nurturing Seeds of People to People,
Embracing BMW Technology Rooted in Culture.**

(直訳) 人と人(民衆交易)の種を育て、地域に根差したBMW技術を取り入れる

開催案内

2019年11月22日(金)～23日(土)

フィリピン・ネグロス島

カネシゲファーム・ルーラルキャンパス(ラ・カルロータ市)

CICM(タリサイ市)

主催 第5回アジアBMW技術交流会実行委員会

第5回アジアBMW技術交流会 開催案内

(ページ)

◎ 第5回アジアBMW技術交流会 開催挨拶	1
◎ 開催概要	4
1. 開催日時と場所	4
2. 交流会スケジュール	5
3. 視察コース	8
4. 参加費	10
5. 詳細	
(1) 交流会の主な内容	11
(2) フィリピンの基本情報	12
(3) 旅のインフォメーション	12
6. 成田、関西、福岡の各空港へのアクセスについて	12
◎ 申込要項	13
◎ 地図	16
ネグロス	16
フィリピン全土・北部ルソン	17

第5回アジアBMW技術交流会の開催に向けて

アジアBM連帯会長 生田 喜和

BMW技術は、内水護博士による自然浄化法を基礎に1988年から1989年にかけて、生物活性水が発明され、BMW技術として理論が形づけられました。その後、内水博士がグリーンコープで学習会をおこない、グリーンコープの産直産地生産者をはじめ、日本全国の産直産地生産者や地方自治体などの堆肥製造センターへ、畜産と耕種農業を結ぶ総合的な技術として普及されてきました。

BMW技術のアジアへの普及は、1994年～1995年にかけて韓国とフィリピンのそれぞれの国において普及計画が始まり、1996年11月にフィリピンのカネシゲファームに、1997年7月に韓国に最初のBMプラントが導入されました。フィリピンへの普及は「民衆交易」の取り組みとの連帯の中でおこなわれました。

その後はタイ、中国、インドネシアへと普及され、2002年から4年に一度、アジアBMW技術交流会を開催してきました。2010年には、アジアに広がるBMのつながりを、より強く深めていこうということで、「アジアBM連帯」が提唱されました。日本で生まれたBMW技術がアジアでも共有され、活動を共にしてきました。

このような経緯を経て、この11月に、「第5回アジアBMW技術交流会・第29回BMW技術全国交流会」を、フィリピン・ネグロス島にて初めて開催することになりました。

フィリピンのネグロス島は、1800年代半ばから大土地所有者によるプランテーションでのさとうきび栽培が基幹産業の島でした。1980年代に入り、国際砂糖相場の大暴落でネグロス島の人々に経済危機が襲い、特に島の人口の七割を占めるさとうきび農園労働者の子どもたち15万人以上が、飢餓による衰弱死の危機にさらされました。

1985年にユニセフがこの危機を発表し、日本でも市民団体やキリスト教会が中心となって日本ネグロス・キャンペーン委員会（JCNC、現・特定非営利活動法人APLA）を設立し、救援活動を開始しました。この救援活動は寄付を前提としたもので、永遠に続けていくには難しく、支援をしながら労働者達が自立に向かう道筋を探していました。そして、この活動にコミットした人のうちのひとりが故・兼重正次さん（元グリーンコープ連合専務理事）でした。兼重さんは、BMW技術の普及とBMW技術協会として全国に組織的な展開を進めていくことに尽力された方でもありましたが、1995年8月30日に惜しくも49歳の若さで亡くなられてしまいました。

当時、兼重さんをはじめ、ネグロスの救援活動に携わった人たちは、1987年からJCNCを介して、日本の生協・市民団体がマスコバド糖（黒砂糖）の取り扱いを始め、その後、ネグロス島にある自然栽培のバナナ（バランゴンバナナ）を輸入して、ネグロス島の人々が餓えを凌ぐことが出来ないだろうかと兼重さんは考えました。それは、日本の生協などの団体が国内自給を優先しているがために、組合員・会員は安全なバナナを食べにくい状況にあったからです。「バナナを日本に輸入することで飢餓に喘ぐネグロス島の支援ができる」、こうした貿易は事業となるわけだから、一過性の救援活動でない継続性が確保できるであろうということ

で、1989年にオルター・トレード・ジャパン（ATJ）が設立され、「民衆交易」が始まりました。

ネグロス島の人々は大地主に雇われる農業労働者が大半で、さとうきび畑では命令されたことだけをする作業労働です。砂糖(マスコバト糖)、バナナの交易を始めることは、農業労働者から「農民」に飛躍することを意味します。民衆交易は支援でも搾取でもなく、対等なパートナーシップ、即ち作る側も食べる側もお互いの自立が前提です。この農業労働者から農民への転身は大きな壁を越えなければなりません。農業労働者は言われたことだけをすればいいわけですが、農民になるためには、まず狩猟採集的な考えを脱し、自然の営みの中で農を実践すること、そして栽培すること、どのように手入れすればいいものが作れるか、自分で考え、判断し、実行する。そのためには農業技術を得なければなりません。北の日本や韓国では当たり前のことだと考えられてしまいがちですが、南のフィリピン等ではそうではありません。農民になるためには、相当に高い壁を乗り越えなければなりませんでした。

民衆交易が始まってから、バンチートップ病と言われるウィルス性の萎縮病と、クキゾウムシという虫害の発生などを受けて、バナナが壊滅的な被害を受けました。過剰生産と連作障害における土壌の疲弊が主な原因でした。土、自然から恵みを奪うだけでなく、いただいた分をきちんと還すために、資源循環型有機農業の計画が始まりました。計画を実現するために、BMW技術を導入した養豚場と堆肥センターを作りました。その農場は1996年3月に「カネシゲファーム」として設立されました。名前の由来は、兼重さんの名前を取って命名されました。この計画もまた、民衆交易を推進するATJと農民の技術運動であるBMW技術を結びつけた兼重さんの構想の集大成でもありました。

しかし、この後、紆余曲折があり、結果としてフィリピンでのBMW技術の普及はうまくいかず停滞したままでした。しかし、2008年に故・アルフレッド・ボディオスさん（2016年逝去）と北部ルソンのグレッグ・ラシガン牧師がこの技術の在り方にこだわり続けてきてくれたことにより、BMW技術がネグロスの地に根を下ろしてから10数年後、カネシゲファームと北部ルソンにて開花し、フィリピンの人たちの手によって普及が始まりました。そして、兼重さんとこれまでネグロスでの取り組みに関わってきた人たちの志を引き継ぐように、APLAとBMW技術協会が全面的に協力をはじめ、また、これまで関わってきた、オルター・トレード・ジャパン、フィリピンの現地法人オルター・トレード社、日本の生協など、多くの人たちの協力もあり、2009年にカネシゲファーム・ルーラルキャンパスが再興しました。

今回、開催地をネグロスにすることにあっては3つの理由があります。ひとつは、カネシゲファームが2009年の再興から10周年を迎えることです。これまでに多くの研修生を受け入れ、BMW技術を基礎にした循環型有機農業を学び、卒業後に故郷で「農民」として生きていく拠点となっています。

次に、ネグロスの流れとは少し異なる流れの中で、2018年の3月に北部ルソン・ヌエバヴィスカヤ州最大の青果市場、NVAT（ヌエバヴィスカヤ・アグリカルチュラル・ターミナル）に生物活性水プラントが設置され、同年7月に稼働を開始しました。

そして今年、BMW技術の日本全国への普及、フィリピンへと繋がっていくきっかけを作ってくれた、故・兼重正次さん（元グリーンコープ連合専務理事）が亡くなられてから25回

忌を迎えることです。兼重さんは協同思想のもと、こうした運動を組織化し事業化することを提起し、亡くなる直前まで活動を続けてこられました。ATJ、BMW技術協会と匠集団そのらの設立に尽力され、その足跡はネグロス、そしてカネシゲファームにもあり、心から感謝の意を表したいと思います。

以上、このような理由を持って、これまで関わってこられてきた全ての人たち、これからフィリピン、アジアを牽引していく多くの人たちが一堂に集い、世代を越えて有意義な文化交流、技術交流をおこなう記念すべき交流会になることを願っています。

【第5回アジアBMW技術交流会 開催概要】

第5回アジアBMW技術交流会はフィリピン・ネグロス島で開催します。これまで日本で開催するBMW技術全国交流会は、現地集合／現地解散でしたが、今回は日本から3箇所（成田・関西・福岡）の出国空港に集合し、帰国空港（出国と同じ空港）での解散となります。

また、参加方法は基本的に、出国空港から帰国空港までのツアー形式でのお申込みになりますのでご了承下さい。従いまして、交流会スケジュールには、渡航行程も一緒に記載します。

なお、福岡空港からの参加の方は、成田空港と関西空港からの参加の方とスケジュールが異なる部分がありますので、ご注意ください。

1. 開催日時と場所

(1) 開催日時 2019年11月

21日（木） 出 国

22日（金） カネシゲファーム・ルーラルキャンパスにてフィールドワーク

23日（土） 第5回アジアBMW技術交流会と懇親会

24日（日） 帰 国

※オプション視察は2コースあります。（8ページ参照）

(2) 開催場所と宿泊ホテル

22日（金） カネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-R C）

住所：Barangay Haguimit La Carlota, 6115 Negros Occidental

23日（土） C I C M

住所：Miramar Park Subd., Talisay, 6115 Negros Occidental

宿泊ホテル ネイチャーズ ヴィレッジ リゾート（Nature's Village Resort）

住所：Talisay National Highway, Zone15, Talisay, 6115 Negros Occidental



KF-R CのBMプラント



C I C M(交流会ホール)



C I C M(懇親会野外会場)

2. スケジュール

<p>11月21日（木） 出国</p>	<p><成田空港発> 11時30分 成田空港 集合 13時40分 成田空港 発 フィリピン航空 PR427 17時30分 マニラ空港 着 国内線乗換え 19時50分 マニラ空港 発 フィリピン航空 PR2137 21時05分 バコロド空港 着 22時00分 ホテルチェックイン 宿泊：Nature's Village Resort^{ネイチャーズ'ス ヴィレッジ リゾート}</p> <hr/> <p><関西空港発> 8時00分 関西空港 集合 9時55分 関西空港 出発 フィリピン航空 PR407 13時10分 マニラ空港 着 国内線乗換え 15時55分 マニラ空港 発 フィリピン航空 PR2135 17時10分 バコロド空港 着 18時00分 ホテルチェックイン 宿泊：Nature's Village Resort^{ネイチャーズ'ス ヴィレッジ リゾート}</p> <hr/> <p><福岡空港発> 13時30分 福岡空港 集合 15時30分 福岡空港 発 フィリピン航空 PR425 18時25分 マニラ空港 着 20時00分 マニラのホテル 着 ※福岡からは接続便がないため、マニラで1泊し、翌朝にバコロドへ移動します。 宿泊：アロハホテル マニラ（予定） ※行きの便または、帰りの便を成田空港または関西空港に変更することが可能（有料）です。実行委員会事務局までお問い合わせ下さい。</p>
<p>11月22日（金）</p>	<p><福岡空港からの参加者> 6時30分 ホテルチェックアウト 6時45分 ホテル出発 7時30分 マニラ空港チェックイン 8時45分 マニラ空港 発 フィリピン航空 PR2131 10時00分 バコロド空港 着 10時30分 バコロド空港 発 バスにて 12時30分 KF-RC着 ～合流～</p>

	<p><成田空港・関西空港からの参加者></p> <p>10時00分 ホテル出発</p> <p>12時00分 カネシゲファーム・ルーラルキャンパス 着 ～歓迎会・昼食～</p> <p>13時30分 フィールドワーク開始</p> <p>◎KF-RCの紹介</p> <p>◎農場内視察ツアー</p> <p>◎兼重正次さんのお墓参り</p> <p>16時15分 終了</p> <p>16時30分 出発</p> <p>18時00分 バコロド市内のレストランにて夕食</p> <p>19時30分 ホテルチェックイン</p> <p>宿泊：Nature's ^{ネイチャーズ} Village ^{ヴィレッジ} Resort ^{リゾート}</p>
<p>11月23日(土)</p>	<p>※ホテルから交流会会場はゆっくり歩いて5～7分程度です。</p> <p>8時30分 受付>プログラムキット、名札、通訳機器の引換え</p> <p>9時00分 開会セレモニー</p> <p>9時30分 午前の部</p> <p>1. 基調報告 「BMW技術協会からの報告」 伊藤 幸蔵 (BMW技術協会 理事長)</p> <p>2. 基調講演 「フィリピンの岩石について(仮)」 奥地 拓生 (岡山大学惑星物質研究所 准教授)</p> <p>3. 特別講演 「民衆交易について」 ヒルダ カドゥヤ (オルター・トレード・フィリピン 代表)</p> <p>4. 各国の事例報告</p> <p>①日本</p> <p>12時00分 昼食</p> <p>13時00分 ～引き続き各国の事例報告</p> <p>②韓国</p> <p>③中国</p> <p>④インドネシア</p> <p>⑤北部ルソン</p> <p>⑥カネシゲファーム</p> <p>○途中休憩あり</p> <p>16時00分 意見交換と総括</p> <p>17時00分 交流会終了</p> <p>18時00分 懇親会</p> <p>21時00分 懇親会終了</p> <p>宿泊：Nature's ^{ネイチャーズ} Village ^{ヴィレッジ} Resort ^{リゾート}</p>

11月24日（日） 帰国	<成田空港 行> 8時30分 ホテル出発 9時00分 バコロド空港チェックイン 10時40分 バコロド空港 発 フィリピン航空 PR2132 12時00分 マニラ空港 着 国際線乗換え 14時40分 マニラ空港 発 フィリピン航空 PR432 20時10分 成田空港 着 ※成田で宿泊を希望の方は、実行委員会事務局までお問い合わせ下さい。
	<関西空港 行> 8時30分 ホテル出発 9時00分 バコロド空港チェックイン 10時40分 バコロド空港 発 フィリピン航空 PR2132 12時00分 マニラ空港 着 国際線乗換え 13時55分 マニラ空港 発 フィリピン航空 PR408 19時10分 関西空港 着 ※関西で宿泊を希望の方は、実行委員事務局までお問い合わせ下さい。
	<福岡空港 行> ※早朝の出発になります。 4時45分 ホテル出発 5時00分 バコロド空港チェックイン 6時35分 バコロド空港 発 フィリピン航空 PR2130 7時55分 マニラ空港 着 国際線乗換え 9時45分 マニラ空港 発 フィリピン航空 PR426 14時30分 福岡空港 着

3. 視察コース

(1) Aコース（プラス1泊でのご案内）

「バランゴンバナナとサトウキビ生産者の訪問とバコロド市内見学」

11月24日（日）	<p>8時00分 ホテル出発</p> <p>9時00分 パタグ・ランタワンなどの地域訪問と交流 >バランゴンバナナ、さとうきび（マスコバド糖）の生産者</p> <p>16時00分 バコロド市内見学（市場とショッピングモール）</p> <p>18時00分 夕食</p> <p>19時30分 ホテル 着</p> <p>宿泊：Nature's Village Resort</p>
11月25日（月） 帰国	<p>※帰国スケジュールは、11月24日（日）と同様になりますので、7ページのスケジュール表を参照して下さい。</p>



バコロド・セントラルマーケット



バランゴンバナナ



庭先養豚

(2) Bコース（プラス2泊でのご案内）

「北部ルソン NVAT（BMW技術が導入された青果市場）と世界遺産を巡る」

11月24日（日）	<p>4時45分 ホテル出発</p> <p>5時00分 バコロド空港チェックイン</p> <p>6時35分 バコロド空港 発 フィリピン航空 PR2130</p> <p>7時55分 マニラ空港 着</p> <p>8時30分 マニラ空港 発 ~チャーターバンにて~</p> <p>※ルソン島は首都マニラのある島です。マニラ空港から途中、昼食や休憩を挟みながら、約300km北にあるヌエバヴィスカヤ州バンバン市を目指します。</p> <p>15時00分 NVAT（ヌエバヴィスカヤ・アグリカルチュラル・ターミナル）着</p> <p>>BMプラントと市場内の視察</p> <p>17時30分 ホテルチェックイン</p> <p>18時00分 夕食</p> <p>19時30分 ホテル 着</p> <p>宿泊：ヒルサイド リゾート ホテル（予定）</p>
-----------	---

<p>11月25日(月)</p>	<p>7時30分 ホテル 発 7時45分 ギルバート農場 着 >朝食と農場視察 9時15分 ギルバート農場 発 11時15分 世界遺産 コルディリエラの棚田 着 >見学と昼食 14時00分 コルディリエラの棚田 発 19時00分 カワヤン市のホテル着～チェックイン 19時30分 夕食 宿泊：カワヤン市 HOTEL JENFER 'S (予定)</p>
<p>11月26日(火) 帰国</p>	<p>7時30分 ホテル出発 8時00分 カワヤン空港 着 9時15分 カワヤン空港 発 セブパシフィック航空 5J197 10時20分 マニラ空港 着</p> <p><成田空港 行> 14時40分 マニラ空港 発 フィリピン航空 PR432 20時10分 成田空港 着 ※成田で宿泊を希望の方は、実行委員会事務局までお問い合わせ下さい。</p> <p><関西空港 行> 13時55分 マニラ空港 発 フィリピン航空 PR408 19時10分 関西空港 着 ※関西で宿泊を希望の方は、実行委員事務局までお問い合わせ下さい。</p> <p><福岡空港 行> 申し訳ありません、福岡空港へ帰国の方はスケジュールに合う航空便がありません。マニラ、または成田、関西にてもう1泊していただいて、福岡空港に向かうようになります。福岡空港発着でお申込みをされる方は、実行委員会事務局までお問い合わせ下さい。</p>



世界遺産コルディリエラ棚田群



NVATのBMプラント



NVAT(青果市場)

4. 参加費

※参加費などは事前振込です。お申込みと振込方法の詳細は13ページをご覧ください。

(1) 全国交流会の参加費

項目	参加費	備考
交流会参加費	158,000円	<p>◎費用に含まれるもの 航空券代（日本⇄バコロド往復）、フィリピン国内移動代、旅行保険代、宿泊代（21日からの3泊朝食付）、交流会及び懇親会参加費、食事代。（交流会の懇親会以外のアルコール類、21日の昼食、24日の昼食と夕食は含まれません）</p> <p>◎お部屋について 基本、ツインのお部屋（相部屋）になります。部屋割りについては、同じ団体から複数の方の参加の場合は、同じ団体同士での組合わせを優先させていただきます。その他の部屋割については、実行委員会で決めさせていただきます。シングルご希望の方は、1泊につき5,000円、3泊合計15,000円のが追加料金が必要となります。</p>
視察コースA	15,000円	<p>◎費用に含まれるもの ネグロス島内移動代、旅行保険代、宿泊代（24日からの1泊朝食付）、食事代（アルコール類、25日の昼食と夕食は含まれません）</p> <p>◎お部屋について 基本、シングルのお部屋になりますが、前日までツインをご利用されていたお二人が、ともに視察コースAに参加される場合は、部屋はそのままツインの利用（部屋移動なし）となります。</p>
視察コースB	35,000円	<p>◎費用に含まれるもの 航空券代（カワヤン→マニラ）、ルソン島内移動代、旅行保険代、宿泊代（24日からの2泊朝食付）、食事代（アルコール類、26日の昼食と夕食は含まれません）</p> <p>◎お部屋について 基本、シングルのお部屋になります。</p>

5. 詳細

(1) アジアBMW技術交流会の主な内容

○カネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-R C）の紹介

カネシゲファームは、1986年の砂糖危機以来、ネグロスの人びとへの支援に尽力された故・兼重正次さん（元グリーンコープ連合専務理事 1995年逝去）にちなんで名づけられています。兼重さんは、日本とネグロスの民衆交易（バランゴンバナナとマスコバド糖）のスタートに多大な貢献をされた方であり、日本におけるBMW技術の普及にも多大なる尽力をいただいた方です。ネグロスの貧しい農民を支援するという兼重さんの夢を、KF-R Cが引き継ぐべく「カネシゲファーム」という名前にしました。

KF-R Cは、ネグロス西州の州都バコロド市から57キロ、交流会会場から65キロ離れたラ・カルロータ市バランガイ・ハギミットの静かで美しい農村地域に位置しています。

次世代の担い手となる若者たちが研修生として住み込み、有畜複合型の循環型有機農業を学ぶ場として、また農民たちが集まって、農法や技術に関する学びや経験を共有しあう場（ルーラル・キャンパス）として開校しました。

5ヘクタールに広がる農場（カネシゲファーム）では、養豚と野菜生産を中心とした循環型有機農業を実践しています。豚以外にも、鶏、ヤギ、アヒル、七面鳥、カラバオなど、様々な家畜が暮らす農場はいつもにぎやかです。

豚舎から出る糞尿を利用した循環システムとして、バイオガスプラントとBMW技術の複合設備を構築し、農場内のエネルギー自給に向けて取り組んでいます。こうした取り組みが注目を集め、近隣の小学校、行政、海外からの訪問・視察も多く受けるようになりました。

また、KF-R Cで研修を受け卒業した若者たちは、自分達の地域に戻って循環型有機農業を取り組み始め、家族や地域に貢献できる農民になりはじめています。

KF-R Cの目的は、さとうきびの単一作物栽培から脱し、農業の新しい価値観を創り出すことと、具体的な農業技術の普及により地域の農民の自立を後押しすることにあります。こうした活動を日本の特定非営利活動法人APLA（BMW技術協会法人会員）は他団体と協力してKF-R Cをサポートしています。

また、KF-R Cでは、BMW技術を取り入れ、養豚、堆肥作り、耕作、生産を農場の中で完結させ、ごみが排出されない循環型有機農業を実践しています。まず、豚から排出された糞尿と畜舎の洗浄水はバイオガスタンクに貯まり、ここで糞尿のメタン発酵を進めます。これが液肥となり、畑への肥料となります。また、液肥は生物活性水へと培養されてミネラル豊富な水が作られ、この水を豚や農場内にいる家畜が飲水として利用し、再び糞尿となって、バイオガスタンクに貯まります。その他、バイオガスタンクからのメタンガスを活用したエネルギー創出や発電の実験をしています。

○交流会について

二日目の交流会は、基調報告、基調講演、特別講演に続きBMW技術が普及している、アジア各国の取り組みなどについての報告がおこなわれます。

交流会の最後は意見交換と総括をおこないます。

○言語について

ネグロス島（西側）の言語はイロongo語です。ホテルやお店では英語が通じますが、農村地域などでは英語が通じない場所もあります。視察Bコースで訪れる北部ルソンも現地語はありますが、ホテルやお店では英語が通じます。

交流会では、同時通訳が入ります。ヘッドフォンセットをお渡ししますので、チャンネルを合わせていただき、英語、韓国語の発表を日本語で聞くことができます。

フィールドワークと視察については、実行委員会の日本人が逐次通訳をします。

(2) フィリピンの基本情報

フィリピン共和国／Republic of the Philippines
面積／約29万9500平方キロメートル（日本の約8割）
人口／約1億98万人（2015年調査）
首都／メトロ・マニラ
行政区／81州（17の地方にグループ分けされる）
公用語／国語はフィリピン語（タガログ語）、それ以外の公用語として英語。母語として使われる言語は80～170にも及ぶと言われている。
※ネグロス島では、西ネグロス州ではイロongo語、東ネグロス州ではセブアノ語が使用されている。
宗教／ローマ・カトリック83%、プロテスタント7%、イスラーム5%ほか
気候／熱帯モンスーン気候に属し、雨期（6～11月ころ）と乾期（12～5月ころ）に分かれるが、地域による差も大きい。
通貨／ペソ、センタボ（1ペソ=100センタボ）

(3) 旅のインフォメーション

フィリピンの行き来とその他の行程に関する詳細は、お申込み後にツアーのしおりをお渡ししますので、そちらをご参照下さい。事前にフィリピンのことについてお問い合わせがある場合は、実行委員会事務局までメール、または電話でお問い合わせ下さい。

6. 成田、関西、福岡の各空港までのアクセスについて

空港まで列車やバス、基本のご自分で切符の手配をお願いいたします。国内線（日本）航空券を必要とされる方は申込み用紙にその旨をお書き下さい。発着地によっては、こちらで手配が可能となり、日本国内線の運賃が安くなる場合があります。

【第5回アジアBMW技術交流会 申込要項】

1. 申込方法

○申込は、FAXまたはメールでお申込下さい。

①FAXで申込をされる方は、添付資料「参加申込書」に所定事項をご記入の上、下記の番号までご送付下さい。

FAX : 03-5211-0636

(お手数ですが、送信確認を電話03-5211-0681までお願いします。
土日の場合は翌月曜日以降にお願いします。)

②メールでの申込を希望される方は、参加申込書をデータでお届けしますので、下記のアドレスまでご連絡下さい。

*E-mail: bm-kyokai@bm-sola.com

2. 参加申込書の記入上の注意 ※別紙添付の参加申込書の2枚目に「記入例」があります。

【申込書の記入上の注意】

(1) 申込日・参加者・参加団体のお名前・名称、連絡先などをご記入下さい。団体で申込まれる場合は、なるべく「担当者」に連絡のとりやすい連絡先(TEL、FAXなど)をご記入下さい。参加人数の合計、参加費の合計金額と振込予定日を記入して下さい。

○基本ツアー(3泊4日)

アジアBMW技術交流会 158,000円

○シングル希望(部屋数限定) 15,000円(1泊5,000円×3泊)

○オプション視察申込み

Aコース 15,000円

Bコース 35,000円

(2) 参加者ごとの申込み欄について

名前の欄が足りない場合は、お手数ですがコピーしてお使い下さい。

①名前(性別)を漢字で記入して下さい。

②生年月日を記入して下さい。

旅行保険の加入申込み用に必要となりますので記入をお願いします。

③パスポートのローマ字表記

名前をパスポートと同じ表記のローマ字で記入して下さい。

名前の記載が航空券と異なる場合、飛行機に乗れない場合があります。

④パスポート番号とパスポートの有効期限

パスポートの有効期限が6ヶ月以上あることをお確かめの上、記入して下さい。

⑤出国と帰国の空港

出国の空港を記入し、帰国の空港が異なる方のみ帰国空港も記入して下さい。

⑥希望する視察コース、または希望しないに○をつけて下さい。

⑦その他

シングル希望の方は（ ）に○をして下さい。数に限りがあります。

○日本国内線や宿泊などについて

成田、関西、福岡までの各空港への航空券の希望がある場合は、国内出発空港をご記入下さい。日本国内宿泊については、希望宿泊地と日付（例：成田で○／○から○泊）を記入して下さい。後日、こちらからご連絡します。

なお、この航空券と宿泊費用については別途、お支払いが必要です。

(3) その他

1) F A Xで申込みの方は、確認の電話をお願いします。

電話：03-5211-0681（土日祝を除く9時～17時）

2) 申込みを受け付け次第、こちらから確認のF A Xまたはメールを返信します。

3. 参加申込の締切日

○参加申込書は 9月20日（金）までにご送付・ご送信下さい。

4. 参加費の支払いについて

○参加申込書の「合計金額」を銀行・郵便局の窓口、A T Mでお振込下さい。

○申し訳ありませんが、振込手数料は参加者のご負担でお願いします。

【振込口座】

①郵便局のA T Mと窓口でのお手続き（口座間お取引含む）

■記号：10180 ■番号：21650791

■口座名義 BMW技術全国交流会実行委員会

②郵便局以外でのお手続き

■金融機関名：ゆうちょ銀行 ■店番：〇一八（ゼロイチハチ）

■預金種目：普通口座 ■口座番号：2165079

■口座名義 BMW技術全国交流会実行委員会

5. 振込締切日

○振込は 10月31日（木）までをお願いします。

6. 変更・キャンセルと参加費の返金について

○申込後の変更・キャンセルについては、下記の「第5回アジアBMW交流会・実行委員会事務局」まで、電話、F A Xまたはメールでお早めにご連絡下さい。

○9月30日（月）以降の変更（参加者の減少）・キャンセルについては参加費用の25%をキャンセル料として頂戴いたします。

○10月15日（火）以降の変更（参加者の減少）・キャンセルについては参加費用の35%をキャンセル料として頂戴いたします。

- 10月28日（月）以降の変更（参加者の減少）・キャンセルについては参加費用の50%をキャンセル料として頂戴いたします。
- 11月11日（月）以降の変更（参加者の減少）・キャンセルについては参加費用の75%をキャンセル料として頂戴いたします。
- 11月18日（月）以降のキャンセルについては全額返金できません。
- キャンセルされた場合、参加費用の返金については、事務処理上の都合で交流会の会計処理終了後（12月中旬以降）になります。返金の際の振込手数料はご負担下さい。

7. お問い合わせ連絡先

- お問い合わせは下記の交流会・実行委員会事務局
一般社団法人BMW技術協会内／担当：秋山・佐々木・星加までご連絡下さい。
受付時間は、午前9時から午後5時まで（土日・祝日を除く）。
※FAX・メールは終日受信できますが、電話での対応は前記の時間帯になります。

8. 問合せ先

【第5回アジアBMW技術交流会・実行委員会】事務局

〒102-0073

東京都千代田区九段北1-9-5 朝日九段マンション207

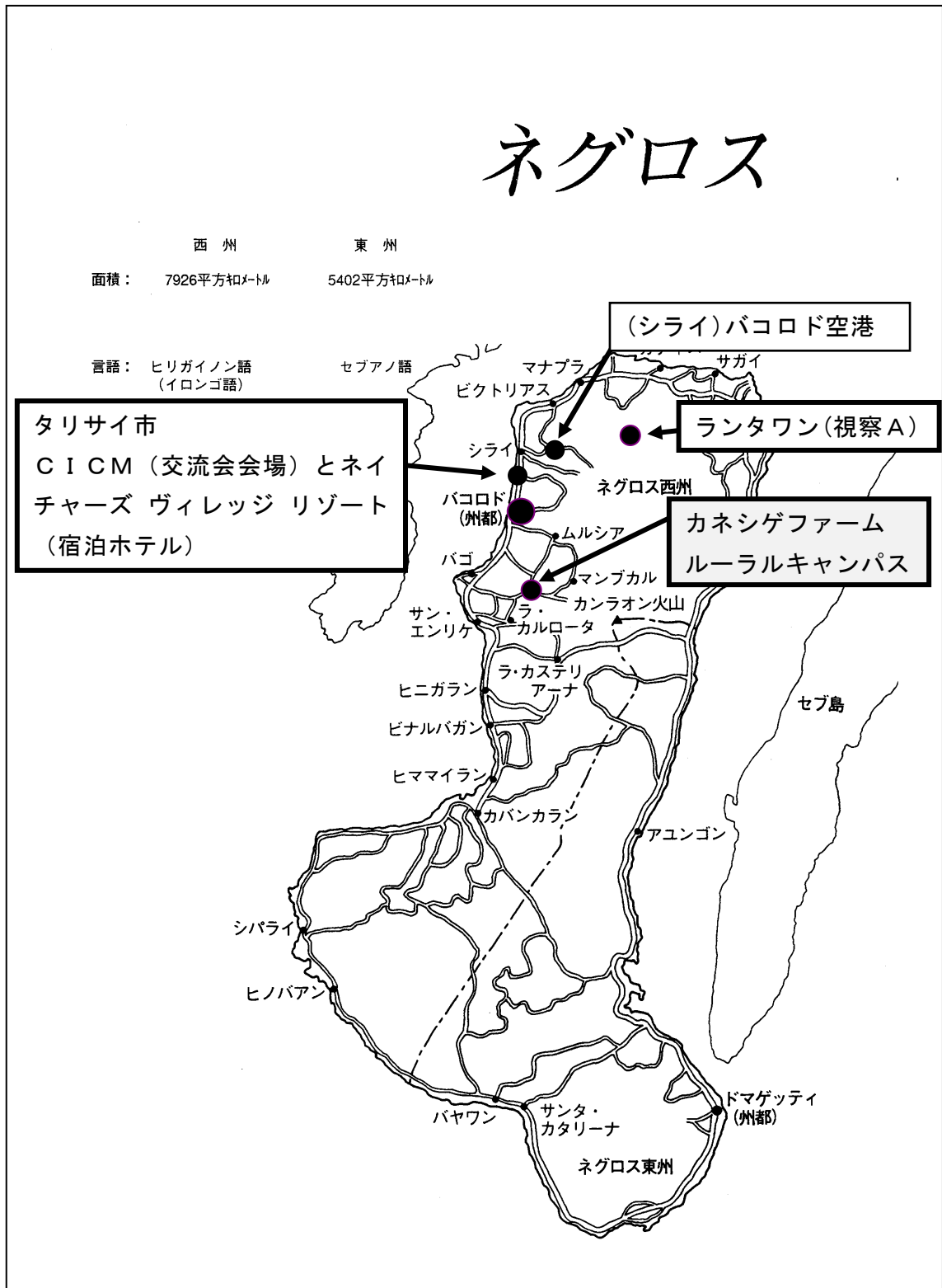
一般社団法人BMW技術協会内

（電話番号）03-5211-0681（FAX番号）03-5211-0636

（メール） bm-kyokai@bm-sola.com

※実行委員会事務局のFAX・電話番号は専用ではありませんのでご注意ください。
一般社団法人BMW技術協会の電話・FAXと兼用です。

ネグロス島の地図



フィリピン全土と北部ルソン島の地図





写真上 KF-RCのスタッフ
写真左 バランゴンバナナと生産者
写真下 KF-RCのBMプラント



— 実行委員会 —

- 実行委員長 生田喜和（アジアBM連帯会長／BMW技術協会常任理事）
実行委員 ヒルダ・カドゥヤ（ATPI代表／KF—RC代表理事）
アリエル・ギデス（ATPF代表）
ジョネル・ベントゥラ（KF—RC理事）
エリマー・トグハップ（KF—RC事務局長）
金谷武志（BMW技術協会若手幹事会／新潟BM自然塾 謙信の郷）
向山洋平（BMW技術協会若手幹事会／やまなし自然塾）
李相充（韓国BM協会／BM水코리아）
事務局 寺田 俊（APLA事務局）
赤松結希（オルター・トレード・ジャパン）
エリア・ジョン・マカタガイ（ATPI）
秋山澄兄（BMW技術協会）
-

Bacteria Mineral Water Technology
